

サムスリングの骨盤骨折に於ける止血使用報告

「一大事だ!救急患者が輸血拒否」

八戸市立市民病院救命救急センター・今明秀

夜10時だった。歩行中の女性が時速50kmの車に跳ねられ受傷した。彼女が救命救急センターに運ばれた時は、血圧69、脈拍94、呼吸数19の出血性ショックであった。彼女はか細い声でしきりに「輸血はいやだ」を繰り返していた。バッグの中の「輸血拒絶書」は本物で、サインがしっかりされていた。これは一大事だ。

血圧が低下する出血量は、循環血液量の30%（10）を超えているはず。リンゲル液を急速輸液しながら、出血源を探した。最も恐れていた腹腔内出血がないことは、超音波検査ですぐに分かった。しかし、派手な骨盤骨折がレントゲン検査で分かった。臀部に大きな傷がありそこから血液が噴出していた。ここは絹糸の連続縫合で止血した。20の初期輸液で、血圧は戻らなかった。このようなnon responderには、緊急輸血と止血処置が必要となる。

輸血なしで止血術に入る。最初に骨盤をバンドで締める「サムスリング」をひと巻きした。これで血圧が上昇した。ガス分析のHbは6 g/dlであった。普段なら輸血開始している値だ。血管造影室に移動しTAEを行い、さらに同じ部屋で骨盤創外固定を行った。

集中治療室に入室した彼女の顔色に紅はなかった。心拍数は早いままだった。5日目Hb 3 g/dlまで低下したが、そこが下げ止まりであった。無輸血治療に彼女は満足し、129日目にリハビリ病院に寝たきり状態で転院した。

輸血拒否それは医学に対する挑戦。

補足-1 青森県はドクターヘリを有効に利用しています。次のブログページを参照ください。

www.doctor-heli.jp

補足-2 サムスリングの使用方法については次のアコード NetPage を参照ください

<http://www.accord-intl.com/rescue/sam4.html>